（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ごえん黒崎			
○保護者評価実施期間	2026年10月9日	～	2026年10月21日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	42	（回答者数）	35
○従業者評価実施期間	2026年10月9日	～	2026年10月21日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	10	（回答者数）	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年11月2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性やニーズに応じた個別支援	原則として、こどもとスタッフが1対1で支援を行っています。こどもや保護者の意向を踏まえて支援計画を作成し、スタッフ間で話し合いながら、一人ひとりの特性に応じたプログラムを検討しています。	支援会議や症例検討を通じて、こどもの特性や支援方法について職員間で理解を深め、支援の質の向上と安定した支援につなげていきます。
2	保護者が支援を見学・相談できる環境	保護者が療育場面を見学できるようにし、必要に応じて支援の目的やポイントを伝えています。また、日々の困りごとや成長について相談できるよう努め、定期的なモニタリングを通じて情報を共有しています。	保護者の不安や悩みを把握し、家庭での関わり方や今後の支援について一緒に考える機会を大切にしていきます。
3	イベントを通じた家族同士・関係機関とのつながり	ポケモンカード大会や調理活動、保護者会などを実施しています。こどもたちの交流だけでなく、保護者が不安や悩みを共有する場や、相談支援事業所などの関係機関とのつながりを深める機会にもなっています。	保護者のニーズを踏まえてイベントの内容を検討し、家族同士が交流できる機会や関係機関との連携を深める機会を継続して設けていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	不登校児童の状態に応じた利用・支援の調整	こどもの状態に応じた利用時間、活動内容、職員の関わり方などが、本人や家族のニーズに十分に合っていない場合があります。	本人や家族の状況、利用時の様子、支援への反応を確認し、管理者・児童発達支援管理責任者・セラピスト等で検討しながら、利用時間や活動内容、関わり方を見直していきます。
2	利用時間や送迎方法に制約がある	個別支援を基本とし、利用時間も一定の枠内で設定しているため、長時間の利用を希望する家庭や、保護者の送迎が難しい家庭では利用しにくい場合があります。	家庭の状況や本人の状態を踏まえ、利用方法について保護者と相談します。本人のみでの来所が可能と判断される場合には、安全面や移動手段を確認しながら、利用につながる方法を検討します。
3	業務配分に偏りがあり、業務の共有・標準化が不十分	職員によって担当業務に偏りがあり、業務を教え合う時間や、必要なときに相談する機会が不足しています。そのため、業務の進め方や情報が一部の職員に偏りやすい状況があります。	業務内容や役割分担を整理し、職員間で業務を共有する機会を設けます。手順の明確化や記録の整備を進め、職員同士が教え合い、相談しながら業務を進められる体制を整えていきます。